

「クヌギの百年母さん」の舞台となる森林について

おはなしの舞台は、クヌギより構成されている里山です。クヌギの里山は東北から九州まで点々と分布しています。クヌギ林の中にはツツジ類、クロモジ、ウツギなどたくさんの植物が生育しています。



林業遺産

「猪名川上流域の里山（台場クヌギ林）」は、平成25年度に林業遺産に認定されています。

このおはなしは、兵庫県川西市黒川地区を舞台としています。永田萌さんが、森の専門家の服部保さんと実際に現地に行き、取材をして、描いてくれています。その模様は下のHP内のBlogに掲載しているので、ぜひ見てみてくださいね。



KOBELCO森の童話大賞HPの「おはなしを書く前に」で、森についての詳しい情報を発信しています。ぜひご覧ください。
HP www.kobelco-mori-ohanashi.jp



絵本活用のヒント

第5回小学生の部金賞受賞作品

「クヌギの百年母さん」



KOBELCO 森の童話大賞について

森はたくさんのいきものの命を育み、空気をきれいにし、水をたくわえ、私たちの暮らしに安全と豊かな恵みを与えてくれます。でも、一度森が元気を失ってしまうと、元通りにするには長い年月と、大変な努力が必要になります。

このような「森」を理解し、大切に育てる心を、次の世代を担う子どもたちに育んでもらうため、神戸製鋼グループは「森」をテーマにしたおはなしを募集し、絵本を作っています。

この絵本を読んで、一人でも多くの子どもたちが、森をはじめとする自然について考え、かけがえのないものであると気づき、そして、いつか、森を、自然を、元気することを何か一つでも実行していただければと思っています。

「クヌギの百年母さん」の世界



クヌギ

ブナ科コナラ属の落葉高木。
樹高は15-20m。
日本では岩手県・山形県以南の各地に広く分布する。
成長が早く、伐採しても切り株から萌芽更新が発生し、持続的な利用が可能な里山の樹木の一つで、農村に住む人々に利用されてきた。



台場クヌギ

炭の原材料を得るため、クヌギの根元から1~2mの所で幹を伐採して、そこから発生する芽を新しい幹として成長させる特殊な仕立て方。その幹を8年から10年程度育て、再び伐採して利用するうちに、元の太い幹の部分が、土台（台場）のようになる。

カブトムシやクワガタは、クヌギの樹液を好む。
夏の夜、台場クヌギの樹液にはたくさんの虫が集まってくる。



【100年前】



炭焼窯

木を運び出す手間を省く為、伐採したその木の側で、炭を焼いていた。
その代わり、炭職人は小屋も立てて、炭を焼いている間は山に寝泊まりしていた。



【現在】



庭に植えたどんぐりが、100年後みんなが集う木になる。
→拾ったのは、広いお屋敷に住む男の子。その子の子孫が市に土地を寄贈して、100年経った今では大きな公園に…
今回、永田萌さんは、文章からそんなイメージを膨らませて、挿絵を描いてくださいました。